

富山県内水面漁場管理委員会議事録

1 開催の日時及び場所

日時 令和4年5月26日(木) 午後1時30分から午後2時
場所 森林水産会館33号室

2 出席委員

田中篤人、笠井廣志、中田眞一郎、藤田信弥、堀井律子、角眞光彦、中田礼子、
山本勝徳 (欠席委員なし)

3 議長

富山県内水面漁場管理委員会 会長 田中篤人

4 委員会の成立

定員の過半数の委員が出席していることから、漁業法第145条第1項及び第173条の規定に基づき、当委員会は成立。

5 議事録署名委員の指名

笠井廣志、堀井律子

6 県職員等

水産漁港課 矢野課長、小善副主幹、川口主任

7 事務局職員

辻本事務局長

8 付議事項(議題)

(1) 第5種共同漁業権の設定されていない内水面におけるあゆ採捕の禁止期間の延長にかかる委員会指示について(協議)

県から資料1-1により、「第5種共同漁業権の設定されていない内水面におけるあゆ採捕の禁止期間の延長について」協議があった。

あゆの採捕については、富山県漁業調整規則第39条第1項により、6月15日まで禁漁となっているが、漁業権の設定されている内水面では、各漁業権者が定める行使規則及び遊漁規則により6月16日以降の漁業権者が定めて公表する日に解禁することとなっている。各漁業権者による書面協議により、毛針釣及び友釣等の釣りについては6月16日(木)の午前5時から、投網、てんから網等の網類については6月21日(火)正午からと合意された。漁業調整及び取り締ま

りの観点から、漁業権が設定されていない内水面における釣りについても、漁業権の設定されている内水面と同日同時刻に解禁することが望ましく、ついでには委員会指示により令和4年6月16日午前0時から午前5時までを、漁業権の定められていない内水面において、あゆ採捕を禁止する委員会指示を発する旨の説明があった。

- ・藤田委員から、漁業権の設定されていない河川とは具体的にどの河川を示すものか、という質問があり、県水産漁港課川口主任から、境川、早月川及び常願寺川が一定程度の規模を有する河川として例が挙げられた。

- ・この他、委員からの質問等は無く、事務局が資料1-2に示した案のとおり委員会指示を発出することが決定された。

(2) 内共第13号(百瀬川)及び第15号(庄川上流)におけるあゆ採捕の制限について(協議)

県から資料2-1により、「内共第13号(百瀬川)及び内共第15号(庄川上流)におけるあゆ採捕の制限について」の協議があった。

県水産研究所が、庄川沿岸漁業協同組合連合会の協力のもと、平成30年度から、庄川の小牧ダム上流域すなわち内共第15号の庄川上流域にアユを放流し、当該水域において新たなアユ資源を造成できることに成功している。昨年度から、アユ資源の有効利用を目的として、内共第15号に加え内共第13号の百瀬川においても放流を実施して調査を行っているため、両漁場におけるアユ採捕を制限する委員会指示を発するための協議である旨の説明があった。

- ・中田眞一郎委員から、庄川上流の利賀川では、国土交通省により利賀ダムの建設が進められており、工事によるアユ放流への影響範囲について質問があり、県水産漁港課小善副主幹から、水産研究所に放流場所などの詳細を確認したうえで、次回の委員会で報告すると回答があった。

- ・補足説明として、藤田委員から、利賀川におけるアユの放流と調査場所は、利賀ダム工事区間のずっと上流で行われており影響はないだろう、と発言があった。

- ・田中会長から、調査に係る予算について、令和3から5年度に確保されているのか、また、今後の予定について質問があり、県水産漁港課川口主任から、予算については毎年度に要求していくこと、令和8年度に漁業権の更新があり、そのタイミングに間に合うように本水域に漁業権を設定できるか検討したい、との回答があった。

- ・藤田委員から、どのくらいの尾数のアユが放流されているか質問があり、県水産漁港課川口主任から、今年度については、庄川上流に3万尾、百瀬川に1万尾が放流される計画であることが説明された。

- ・この他、委員からの質問等は無く、審議の結果、別添資料2-2のとおり委員

会指示を発出することが決定された。

(3) 令和4年度アユ種苗放流計画について（報告）

県から、資料3に基づき説明があり、本年度の富山県下全体におけるアユ種苗放流計画は35,648kgを予定しており、このうち放流計画に占める県内産種苗は、黒部川、井田川及び庄川で放流尾数を増やしており、県内種苗の割合は70.8%に増加している。なお、昨年度の実績は36,262kgで、県内種苗の割合は66.9%であった。近年の県内におけるアユ種苗放流量は36～44トンで推移しており、地場産種苗の割合も70%前後で推移している。

情報提供として、県水産研究所で行っているアユ遡上調査の結果では、4月19日に熊野川で実施した調査によると、20回の投網で30尾のアユが採捕され、昨年と同じ時期では投網20回で18尾が採捕され、昨年を上回る結果であった。また、採捕されたアユはすべて天然魚であった。5月10日の調査では、20回の投網で109尾が採捕され、これもすべて天然魚で、昨年と同じ時期では投網10回で61尾が採捕されたことから、1網あたりの尾数に換算すると同程度の結果となった。水産研究所によると、魚体のサイズは小型化しているが、数は昨年度よりも多いのではないかと評価している。

水産研究所によるアユの遡上量予測では、平年並み又は平年より多いと予測され、根拠として前年10月の富山湾の表層海水温並びに前年12月と今年1月のカタクチイワシの漁獲量、このカタクチイワシはアユと餌の競合相手となっており、前者の水温は平年並み、後者のカタクチイワシ漁獲量は平年より少なかったことから、アユにとってプラス要因となったことに基づくものであるとの報告があった。

- ・本件に関し、委員からの質問等は無かった。

(4) その他

- ・特になし

(5) 次回の委員会の日程について

次回の委員会を、令和4年7月21日（木）13時30分から開催することを申し合わせ、散会した。

以上のとおり、相違ないことを証するため署名する。

令和4年5月26日

議長

署名委員

署名委員
